

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

当座預金	受取手形	売掛金	前払金	貸付金
未収金	立替金	他店商品券	仮払金	支払手形
買掛金	借入金	未払金	前受金	預り金
商品券	仮受金	貸倒引当金	引出金	売上
受取手数料	受取利息	有価証券売却益	仕入	貸倒引当金繰入
貸倒損失	租税公課	旅費交通費		

1. 沖縄商店に対して商品¥35,000を注文し、手付金として¥20,000の小切手を振り出して渡した。
2. 出張中の従業員から当座預金の口座に¥92,000の入金があった。このうち、¥28,000については、得意先奈良商店から注文を受けたさいに受領した手付金であることが判明しているが、残額¥64,000の詳細は不明であった。
3. 個人商店である兵庫商店は、営業用店舗の固定資産税¥260,000と事業主の所得税¥410,000を当座預金の口座振替により納付した。
4. 得意先の宮崎商店が倒産したため、同商店に対する前年度発生の売掛金¥70,000が回収不能となり貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高が¥45,000あった。
5. 広島商店から商品¥20,000を仕入れ、代金のうち¥15,000については、売掛金のある得意先である岡山商店を名宛人とする為替手形を振り出し、岡山商店の引受けを得て広島商店に渡し、残額は掛けとした。

第2問 (10点)

取引先に対して、昨年の9月1日に¥1,200,000を、期間2年、年利率5%、利払日2月および8月末日の条件で貸し付けた。当期中の受取利息に関する諸勘定の記入は、次の通りであった。各勘定に記入された取引等を推定し、イ～ホには適切な語句を、a～eには適切な金額を記入しなさい。なお、利息は利払日にすべて現金で支払われている。

会計期間は、1月1日から12月31日までの1年間とする。未収利息は、月割計算によって求めなさい。

受 取 利 息				未 収 利 息			
1/1	(イ)	()	2/28	現 金	(a)	1/1	前期繰越 (c)
12/31	(ロ)	()	8/31	〃	()	12/31	() ()
			12/31	(ハ)	(b)		()
		()			()		(d)
損 益							
			12/31	()	(e)		

第3問 (30点)

次の(A)および(B)の資料にもとづいて、答案用紙の平成25年1月31日の合計残高試算表を作成しなさい。なお、当店は資本の引出しについては、引出金勘定を用いて処理している。

(A) 前期末の貸借対照表

貸借対照表			
平成24年12月31日			
資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	101,000	支 払 手 形	136,000
当 座 預 金	255,000	買 掛 金	310,000
受 取 手 形	152,000	前 受 金	31,000
売 掛 金	228,000	貸 倒 引 当 金	17,000
商 品	200,000	備 品 減 価 償 却 累 計 額	92,000
備 品	250,000	資 本 金	600,000
	1,186,000		1,186,000

(B) 平成25年1月中の取引

1. 現金取引

(1) 収 入

- ア. 現金売上 ￥85,000 イ. 当座預金からの引出 ￥78,000
- ウ. 売掛金の回収 ￥15,000 エ. 商品の手付金の受領 ￥13,000

(2) 支 出

- ア. 給料の支払 ￥79,000 イ. 消耗品の購入 ￥17,000 ウ. 当座預金への預入 ￥39,000
- エ. 電話料金の支払 (ただし、40%は店主家計の利用分) ￥8,000 オ. 現金仕入 ￥18,000
- カ. 家賃の支払 ￥23,000

2. 当座預金取引

(1) 増 加

- ア. 売掛金の回収 ￥20,000 イ. 現金の預入 ￥39,000 ウ. 手形代金の取立 ￥37,000
- エ. 店主からの追加元入 ￥100,000

(2) 減 少

- ア. 小切手振出しによる仕入 ￥16,000 イ. 買掛金の支払 ￥110,000
- ウ. 手形代金の決済 ￥92,000 エ. 現金の引出 ￥78,000

3. 商品売買取引

(1) 仕 入

- ア. 現金仕入 ￥18,000 イ. 小切手振出しによる仕入 ￥16,000
- ウ. 掛仕入 ￥91,000 エ. 約束手形振出しによる仕入 ￥9,000
- オ. 仕入値引 ￥2,300 (掛代金から控除)

(2) 売 上

- ア. 現金売上 ￥85,000 イ. 手付金を受け取っていた得意先への商品引渡 ￥36,000
- ウ. 掛売上 ￥132,000 エ. 得意先が振り出した約束手形の受入による売上 ￥22,000

4. その他の取引

- ア. 約束手形の受入れによる売掛金の回収 ￥96,000
- イ. 買掛金支払のために裏書譲渡した約束手形 ￥44,000
- ウ. 買掛金支払のために振り出した約束手形 ￥26,000
- エ. 前期に生じた売掛金の貸倒れ ￥12,000
- オ. 備品の購入（代金は来月 13 日支払予定） ￥150,000

第4問 (8点)

伝票会計制度には、入金伝票、出金伝票および振替伝票の3種類に分けて起票する3伝票制のほかに、さらに仕入伝票と売上伝票も用いる5伝票制がある。次に示す取引は、5伝票制にもとづいて起票されたものである。この取引を3伝票制で起票する場合、(1)取引を現金仕入と掛仕入とに分解して処理する方法および(2)いったん全額を掛けによる仕入取引として処理する方法の2つがある。それぞれについて、答案用紙における各伝票(略式)の空欄を埋めなさい。ただし、勘定については人名勘定を用いないこと。

<u>仕 入 伝 票</u>	
買 掛 金	¥395,000
(山梨商店)	

<u>出 金 伝 票</u>	
買 掛 金	¥24,000
(山梨商店)	

第5問 (32点)

次の決算日に判明した未処理の事項および決算整理事項にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。
なお、会計期間は1月1日から12月31日までの1年間である。

決算日に判明した未処理の事項

1. 現金過不足のうち、¥6,200 は受取手数料の記入もれであることが判明した。残額については原因不明のため、適切な処理をした。
2. 仮払金は全額売買目的有価証券の購入金額であることが判明した。
3. 買掛金の支払いのために振り出した約束手形¥98,000 が¥89,000 と記帳されていたことが判明したのでその修正を行った。
4. 決算日直前に当座預金口座より、当期分の支払利息¥6,500 が引き落とされていたことが判明したが、この処理はまだなされていなかった。

決算整理事項

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対して差額補充法により2%の貸倒引当金を設定する。
2. 期末商品棚卸高は¥885,000 である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
3. 建物および備品に対して定額法で減価償却を行う。残存価額はともに取得原価の10%とし、耐用年数は建物30年、備品10年である。
4. 売買目的有価証券の期末評価額は¥812,000 である。
5. 消耗品の未使用額は¥18,200 である。
6. 受取手数料の前受額は¥29,000 である。
7. 支払地代は毎月同額を11月分まで支払っている。当期の未払額を計上する。
8. 保険料のうち、¥234,000 は向こう1年分を本年3月1日に支払ったものである。